

「名寄市子ども達のために、私達の地域の未来のために」就任当初から今日までの七年間、日々重責を感じながらも、変わらぬ想いで教育委員の活動に努めて参りました。

学校訪問では、窓から見える美しい山並みと教室での素直な子ども達の眼差しが調和して、大変穏やかで充実した時間が流れていることに、名寄の環境の素晴らしさや日頃の先生方のご指導の成果を感じておりました。委員として更なる飛躍を決意した二期目、残念ながら参観や式の参列が制限されるコロナ禍を迎え、歯痒い日々が続きました。

そのような折、昨年7月文部科学省主催の全国市町村教育委員会研究協議会(名古屋市開催)に参加する機会を頂きました。31都道府県96名の参加者と初等中等教育施策の動向について受講し、その後分科会ではいじめ・不登校をテーマに東京・神奈川・愛知の教育長、教育委員5名でグループ討議を行いました。学力偏重志向の親が子に進学を切望し、受験の圧に子ども達が疲弊する都市部。多数の工場が隣接し外国人就労者と新規就労者、旧住民が混在する工業地帯。人口減少により学校と街が存続の危機にある小さな村。地域の環境により学校における課題や子ども達の悩みは様々ですが、不登校が増加傾向にあることは全国共通の認識で、多様で異なる状況から見えてくるものは多く、各地域に思いを馳せながら互いの話を傾聴し課題を共有した時間は大変有意義でありました。対面で学ぶことや対話することの重要性を改めて感じたと同時に、今後コロナ禍により過去最多になると想定される不登校の問題は、決して子ども達に限られたことではなく、行動制限が習慣化し社会や人との繋がりを持つことに消極的な大人達においても社会からの孤立が危惧されます。

コロナ禍により社会の在り方が劇的に変化し、学校でもGIGAスクール構想に基づく一人一台端末の導入が急速に進められました。端末の活用は、個別最適な学びの充実や、健康観察による心や体調の変化の早期発見により、誰ひとり取り残されない学びの保障として不登校支援においても期待されているところです。各分野でデジタル化が加速する中、子ども達も先生方も私達も皆新しいスキルを身に付け活用していくことは、これからの時代に必須で急務であります。一方で、過剰な情報を正しく判断する深い考察力や人間関係を構築する力は、机上での知識の受け渡しだけではなく、人との関わりの中で体験を通して育まれていくものだと思うのです。

豊かな自然に恵まれた名寄市の街には、文化、芸術、歴史、天文、スポーツ等の充実した施設があり行事等も多数企画されています。また学校や地域の課題に地域全体で取り組むコミュニティスクールが導入され、地域住民の方々が学校と連携・協働していくことが求められています。新しい日常を取り戻した今、大人も子どもも一歩前進し行動する勇気を持ちたい。己に誓うと共に、子ども達や地域の皆様の未来が拓かれていくことを心から願います。